

基礎看護学技術演習時に学生が学べた看護者の基本的姿勢の意味

What Students Have Learned on Basic Attitude
in Fundamental Caring Practice

富 田 幸 江
Sachie TOMITA

佐々木 美 樹
Miki SASAKI

テーマ

基礎看護学技術演習時に学生が学べた看護者の基本的姿勢の意味

キーワード：基礎看護学技術演習 看護学生 看護師の基本的姿勢 信頼関係

要旨

本研究の目的は、看護学生が、基礎看護技術の学内演習時に、学生である患者役に対して、看護師の基本的姿勢（傾聴・共感・受容・尊重・誠実さ）を意識し、技術練習をしていたか、また、それらの姿勢は患者役との関係の中で、どのような意味があると捉えているか、質問紙調査から分析し明らかにすることである。

本研究の対象者は看護系短期大学（3年課程）1年生38名であり、データ収集方法は、研究者らが作成した質問紙により、回答を求めた。たいへん意識した、意識した、少し意識したものに対して、これら看護師の姿勢は対象との人間関係においてどのような意味があると考えたか、記述内容により回答を求めデータとした。データの分析方法は、記述内容をコード化し類似内容毎に集計し、抽象度を高めるためにカテゴリ化を行った。

以上のことから、次のことが明らかになった。

1. 基礎看護技術の学内演習時、基本的姿勢を用いた者は28名（73.7%）みられた。
2. 看護師の基本的姿勢を用いたことで、看護における対象との人間関係に以下のような意味を捉えていた。
 - 1) 信頼関係を築くことができる。
 - 2) 対象との関係が円滑になりよりよい看護につながる。
 - 3) 親密さが生まれコミュニケーションを深めることができる。
 - 4) 自己理解や対象理解など相互に理解できる。
 - 5) 対象と共にあるという関係になる。

I. はじめに

看護の目的は、「人間対人間の間関係を確立することを通して達成される」¹⁾ということから、看護師は看護の対象である患者と成長を促しあえる前向きな人間関係を形成し、よりよい看護につながるようにしていくことが求められる。

このような状況からも、看護基礎教育における基礎看護技術の習得は、ただ、単に技術の手順や方法などスキルを学ぶということに終始せず、対象を理解し、対象と関係性を築くための基本的なコミュニケーション技術を学内における基礎看護技術演習（以下学内演習）において学んでいかなければならない。この学習のねらいを達成するために、学内演習においては、学生同士、患者役・看護師役になり、技術の方法を練習するとともに、対象とのコミュニケーション技術についても学ぶことになる。なかでも、患者とコミュニケーションをとる際の看護師の基本的姿勢である、傾聴、共感、受容、尊重、誠実さについて、学内演習において、その意味について意識的に学習することが、臨地実習において、患者との人間関係の形成につながる内容と考える。

そこで、今回、学内で技術を練習しあう学生同士の間においても、看護師の基本的姿勢を学生がどのように捉え、その意味を考えているのか意識調査をした結果、看護師の基本的姿勢が対象との信頼関係を築く上で大切な要素であるという気づきが見られたのでここに報告する。

II. 研究目的

基礎看護学技術演習時に学生が学べた看護者の基本的姿勢の意味について、学生の記述内容から分析し、明らかにする。

III. 研究方法

1. 対象：看護系短大1年生38名（後期終了時）

対象の背景：基礎看護技術に関する授業（講義・演習）は全て終了している。

看護師の基本的姿勢とその意味については、1年次（前期）において、コミュニケーションの授業の中で講義を受け知識として理解している。

2. データ収集方法：1学年後期、最終の基礎看護技術演習時に以下の内容で、研究者らが作成した質問紙により記載を依頼した。

調査内容：1) 学内における技術演習時、看護者の基本的姿勢を意識し、患者役の対象学生に関わったか5段階尺度（大変意識した、意識した、少し意識した、あまり意識しなかった、意識しなかった）にて回答を求めた。また、大変意識した、意識したもの、少し意識したものに対して、それらの姿勢を意識することで、対象との人間関係にどのような意味があったと考えられたか、自由記述式により回答を求めた。

本研究では、今回、「大変意識した」、「意識した」と回答した28名が、「看護師の基本的姿勢

が対象との人間関係にどのような意味を持つと考えたか」について、記述したもののみデータとした。

3. データ分析方法：

1. 5段階尺度で回答を求めたものは、単純集計を実施した。
2. 記述式による回答はコード化による内容分析を実施した。なお、記述内容のコード化のルールは、1意味1内容とした。コード化したものについて、類似内容に分類し、サブカテゴリ化を実施し、さらに抽象度を高めるために、カテゴリ化を実施した。分析の妥当性を図るために、研究者2名がその内容について、複数の検討を重ね、コード化と分類を実施した。

IV. 倫理的配慮

学生に、研究の主旨、データの秘密厳守、研究以外に使用しないこと、研究同意の有無により成績には影響しないことを説明し、同意を得た学生のみを対象とした。

〈用語の定義〉

1. 学内における基礎看護技術の習得の考え方

学内で習得する看護基礎技術において、単なる手順や方法に終始することなく、学生の患者役を理解し、人間関係を形成しながら、安全、安楽、自立を考慮した技術を習得することとしている。

2. 「看護師の基本的姿勢」²⁾

看護師が対象との人間関係を形成していく上で、大切な姿勢として、「傾聴」「受容」「共感」があげられる。さらに、信頼関係に影響を与える「尊重」「誠実さ」をコミュニケーションにおける看護師の基本的姿勢とした。

V. 結果

1. 学内での技術演習時、看護師の基本的姿勢を用いたかについて、5段階尺度で回答を求めた結果、「大変意識した」3名、「意識した」25名、「少し意識した」6名、「あまり意識しなかった」4名、「意識しなかった」0名であった。「大変意識した」、「意識した」と回答したものは、73.4%（28名）であった。
2. 学内演習において、看護師の基本的姿勢を意識し技術練習したと回答（28名）した学生が、「基本的姿勢を意識したことで、対人関係にどのような意味があると考えられたか」について、記述内容をカテゴリ化した結果は表1の通りであった。

カテゴリ化した結果、7小カテゴリ、4中カテゴリ、1大カテゴリとなった。大カテゴリは、「基本的姿勢により信頼関係を築くことができる」に分類・カテゴリ化ができた。

表1 基本的態度を用いたことで対象との人間関係にどのような意味があると考えるか

大	中カテゴリ	小カテゴリ	代表コード
基本的姿勢により信頼関係を築くことができる	1. 対象との関係が円滑になり、よりよい看護につながる。 35枚 (48.6%)	1) 対象との関係が円滑であれば、看護師としてよりよい看護が提供できる。 21枚 (29.2%)	<ul style="list-style-type: none"> 相手のしてほしいことが聴けるので、相手に少しでも多くの安心感とその言われたことを実践することによって、安楽も与えられると思う。 相手の話にしっかりと耳を傾けることにより、そこに信頼関係が生まれ、自分も相手も、リラックスして精神的に良い状態でケアができると思う。 対象も安心して、援助を任せてくれるし、自分も思いやって援助を行えると思った。 基本的態度をとることにより信頼関係の上で、看護援助を行うことができる。 看護に必要な互いの信頼関係を築くことができると感じた。
		2) 看護師との関係が円滑であれば、患者は遠慮せず、看護が受け入れられる。 14枚 (19.4%)	<ul style="list-style-type: none"> 看護師に対して、変な遠慮をしなくなる。 患者に安心して看護を受けてもらえる。 傾聴を用いることによって、対象が自分の思いや訴えを言いやすくなる。 誰でもあったときの印象は残るので、はじめからコミュニケーションをとっていれば、だんだんと対象との距離が近づくので、今の状態など遠慮せず言うてもらうことができる。 自分の行う技術の良くないところなども言ってもらえる。
	2. 基本的姿勢により親密さが生まれ、コミュニケーションを深めることができる。 20枚 (27.8%)	1) 基本的態度を意識していれば、心の距離が近くなり、親密さが生まれ、信頼関係が築ける。 12枚 (16.7%)	<ul style="list-style-type: none"> 基本的態度をお互いに意識していれば、お互いの心と心の距離が近くなったと感じがして、信頼関係が深まった感じがした。 心が開くということからおたがいの良い関係が築けると思う。 傾聴という態度を示すことで、看護師は私のことに気をかけてくれているんだ、こんなに親身になって話を聴いてくれるなら、悩み事を相談しようかなと段々心を開いてきてくれると思う。 共感した気持ちを相手にかえせたならば、患者さんのことを考えているという気持ちが伝わり、親しみやすいという印象になっていくと思う。 触れ合いから、深い人間関係を築いていくきっかけになると思う。
		2) 話を聴いてもらえたと思うことで、信頼関係が生まれる 8枚 (11.1%)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の話を聴いてくれると思うだけで、相手に対する信頼関係が生まれ、さらに、コミュニケーションを深めることが可能になる。 耳を傾けてくれるという印象は、信頼関係を築く上でも良い働きをする。 傾聴を常に心がけていることで、気づかなかったこともたくさん知ることができるし、気づかせてくれたことを、素直に受け入れることで、対人関係や信頼関係がうまくできると思う。
	3. 対象の理解や自己理解など相互に理解できる。 11枚 (15.3%)	1) 対象がどのように感じているかわかる 8枚 (11.1%)	<ul style="list-style-type: none"> 患者さんの意見を聞き、コミュニケーションをとることからお互いを理解し、信頼関係が生まれると思う。 互いが少しでも理解できた喜びがある。 患者の悲しみにじっくり耳を傾けることで、理解が深まり、私も何かお役に立ちたいと思う気持ちがわいた。 自分の技術を客観的に見ることができ、また、対象者がどのように感じているかがわかるため、より良い技術を提供することができる。 しっかりと、傾聴できていれば、対象の理解に役立つ。
		2) 対象から、自分自身のことについて、色々なことを気づくことができる。 3枚 (4.2%)	<ul style="list-style-type: none"> 自分勝手にやっていたら、本人は楽かも知れないけど、その分、たくさんのほかの意見を逃してしまうと思う。 傾聴を常に心がけていることで、気づかなかったこともたくさん知ることができるし、気づかせてくれたことを、素直に受け入れることで対人関係や信頼関係がうまくできると思う。
	4. 基本的姿勢により、対象と共にあるという関係になる。 6枚 (8.3%)	1) 一緒に行うという同一の関係ができる。 6枚 (8.3%)	<ul style="list-style-type: none"> 対象と自分は一緒に行っているという感じを受けた。 医療者、患者へのケアにおいて、一方的にやる、やられるという関係が、共感することにより同一の関係になると思う。 傾聴の姿勢は、これからどんなことがあってもお互いを信じられる力となったり、支え続ける力となり、とても大切だと思う。

第1中カテゴリでは、1.「対象との関係が円滑になり、よりよい看護につながる」35枚(48.6%)で、それらを構成する小カテゴリは、一つ目として、「対象との関係が円滑であれば、看護師としてよりよい看護が提供できる」21枚(29.2%)であった。学生の代表コードを紹介してみると『相手のしてほしいことが聴けるので、相手に少しでも多くの安心感とその言われたことを実践することによって、安楽も与えられると思う』『対象も安心して、援助を任せてくれるし、自分も思いやって援助を行えると思った』など、看護師との関係が成立することによって、安楽な看護援助を提供できると回答していた。二つ目の小カテゴリとして、「看護師との関係が円滑であれば、患者はよりよい看護が受け入れられる」14枚(19.4%)であった。看護師との関係の円滑さが、患者サイドから見ても、よりよい看護が受け入れられるというみかたをしていた。

第2中カテゴリは、「基本的姿勢により親密さが生まれ、コミュニケーションを深めることができる」20枚(27.8%)であった。それらを構成する小カテゴリの一つ目は、「基本的態度を意識していれば心の距離が近くなり、親密さが生まれ、信頼関係が築ける」12枚(16.7%)であった。学生の代表コードを紹介してみると『基本的態度をお互いに意識していれば、お互いの心と心の距離が近くなったと感じがして、信頼関係が深まった感じがした』『心が開くということからお互いの良い関係が築けると思う』いずれも、関係の深まりにより、心の距離が近くなると考えていた。

二つ目の小カテゴリでは、「話しを聴いてもらえたと思うことで、信頼関係が生まれる」8枚(11.1%)であった。学生の代表カードでは、『自分の話を聴いてくれると思うだけで、相手に対する信頼関係が生まれ、さらに、コミュニケーションを深めることが可能になる』など、話を聴くことによるコミュニケーションの深まりが、信頼関係の成立に関わると考えていた。

第3中カテゴリは、「対象の理解、自己理解など相互に理解できる」11枚(15.3%)であった。それらを構成する小カテゴリの一つ目は、「対象がどのように感じているかわかる」8枚(11.1%)であった。学生の代表カードでは、『自分の技術を客観的に見ることができ、また、対象者がどのように感じているかわかるため、より良い技術を提供することができる』であった。対象の感じ方を理解し、より良い技術の提供を実施することを考えていた。二つ目の小カテゴリでは、「対象から自分自身のことについて、色々なことを気づくことができる」3枚(4.2%)であった。学

生の代表カードでは、『自分勝手にやっていたら、本人は楽かも知れないけど、その分、たくさんのほかの意見を逃してしまうと思う』等、対象の話しを聴くことから、自分自身の気づきにつながることに関した内容がみられた。

VI. 考察

1. 学内演習で学生同士が患者役、看護者役を通して看護師の姿勢について学ぶ意味

学生が学ぶべき技術の側面は、看護の必要性を導き出すための認知的技術、安全に安楽に自立

を考え、技術を提供できるための技術的側面の技術、さらに、対象との関係を作りながら技術を提供するための対人的技術などがあげられる。

対象との対人関係を形成し、対象を理解していく対人的技術に関する学びは、学内演習においても重要な学習内容と考える。しかしながら、今回の調査結果にもあるように、学内演習においては、技術練習する対象が学生同士のため、看護師の基本的姿勢について、意識し学内演習をしていなかったと回答している学生もみられた。学内演習においては、なかなか学生同士、具体的な対人関係技術の学びにつながらない状況もみられる。しかし、意識的に看護師の基本的姿勢を意識し、患者役に関わった学生は、技術練習を通して、自らのコミュニケーションのあり方を振り返り、対人関係のあり方を学んでいることが明らかになった。この学内演習での学生同士の技術練習の体験は、看護教育において、看護技術を学ぶための体験学習のひとつと考える。津村⁹⁾は、「体験学習が、学習効果を最大限に発揮できると思われる領域は、何らかの形で、人間の行動が絡んでいる領域である。一方的な知識のつめこみではなく、学習者の体験を通して、体得されるものである。学んだことが様々な場で、自然に実現されやすいよさを持っている」とその学習の効果について述べている。この学習の成果については、初めての基礎看護実習において、誠実に受持ち患者に向き合うことで、患者との人間関係を形成し、信頼関係に発展していくという学びを学生が体験している⁹⁾ことと一致する。さらに、今後、この学びは、津村が指摘するように、看護学の領域別臨地実習においても、受け持ち患者の理解や人間関係形成につながる学習の一つになるものと言える。

また、大段⁹⁾は、対象を理解する看護者の姿勢について、「援助者の態度が優先し、態度が根本である。その土台の上において、初めてことばの技術や工夫が意味を持ってくる」と指摘し、看護師の言葉以上に看護師の姿勢である態度の重要性について述べている。さらに、看護師姿勢について以下のように説明している。「一本の木でたとえると、態度は、木の幹であり、枝や葉は、ことばの技術である。根は、外部から見ることはできない、その人の考えかたである。しっかりした根を張らなければ、太い幹を育てることはできない。根がしっかりしていなければ、外から見ても立派な幹でもちょっとした風にも倒れてしまう。ことばの豊富さは必要だが、幹がしっかりしていなければ、ちょっとした風でも吹き飛ばされてしまう」としっかりとした態度を自らが育てることの意義について述べている。また、このような姿勢の訓練については、「表面的なテクニックを色々工夫しても、それは、対象との関係を促進するために役に立たない。意味ある人間関係として、このような人間関係を日常のあらゆる面で作り出すことが重要」と指摘している。このことから、意味ある人間関係を学生同士が、学内演習のなかで作り出すことは、コミュニケーションが苦手と捉える学生が多いといわれるなか、重要な学習の機会と考える。

2. 学内演習で学べた看護師の基本的姿勢の意味

学内演習において学生が学んだ看護師の基本的姿勢について、記述内容を分類・カテゴリ化し

た結果、看護師の基本的姿勢は対象と信頼関係を築くことにつながるという学びを得ていた。菊池⁶⁾は「看護師の基本的姿勢は、患者の理解につながり、対象者との人間関係を形成する土台になる」と説明している。この人間関係を形成するための看護師の基本的姿勢が患者との信頼関係につながるものとする。カウンセリングプロセス⁶⁾においても、看護師の姿勢が、対象の理解につながり、人間関係が形成され、のちにそれが信頼関係に発展していく。そして、このプロセスを患者自身が体験することで、患者は自ずと自己洞察でき、自己解決に向かい自立し、その人らしさにつながっていくことができると言われている。また、伊藤⁷⁾は、「援助者が、対象と信頼関係を築けたならば、対象は自ずと成長し、自立の方向に向かう。援助者が対象を自立させるということは決してないことを援助者自身が自覚すべき」と指摘している。これは看護の目的は、患者の自立をめざしたものであることと同じ意味を示し、学生が学ぶべき重要な学習内容といえる。

また、今回、学内演習で学生が捉えた、看護師の基本的姿勢が対象と信頼関係を築く上で重要なものであるという気づきは、今後、看護において、対象のその人らしさを支援していく看護につながるものと期待できる。

中カテゴリで一番多くみられたものは、対象との関係が円滑になり、よりよい看護につながると捉えていた。学生の記述内容を紹介すると、『相手のしてほしいことが聴けるので、相手に少しでも多くの安心感とその言われたことを実践することによって、安楽も与えられると思う』『相手の話にしっかりと耳を傾けることにより、そこに信頼関係が生まれ、自分も相手も、リラックスして精神的に良い状態でケアができると思う』『看護師の基本的姿勢により、対象も安心して、援助を任せてくれるし、自分も思いやって援助を行えると思った』などであった。これらの気づきは、G. バートン⁸⁾が言う、「看護師がどの位よい人間関係を作りあげる力を持っているかによって、その満足度、幸福感、成功度が決まってくる職業である」という内容に関連し、今後、学生自らの基本的姿勢が患者への看護の質に影響を与えていくひとつになると推察できる。

さらに、看護師の姿勢により対象が安心し、安楽になれることについては、G. バートン⁸⁾は、「患者を安心させるのは、単に、看護師の言動ではなく、むしろ、それ以上に大切なのは、無意識的な受容の態度である。患者は自分のことを、誠意を持って考えてくれる人がいるという実感と、患者の立場に立って、ものを考える感受性をもった看護師がいるという安心感なのである」と述べ、「看護師は患者をできるだけ心身共に安楽にすることは、看護の職業を持つ者の責任である」と指摘している。看護師の姿勢により、患者は安心し、よりよい看護を受けられることが、その人らしくなるということから、患者と看護師の人間関係を築き深める意味がここにあるといえる。

学生は、患者サイドから、看護師の姿勢の意味について、次のように捉えている。『看護師が傾聴を用いることによって、対象が自分の思いや訴えを言いやすくなる』『看護師の姿勢によって患者は変な遠慮がなくなる』など、看護師と患者との関係が円滑であれば、患者は遠慮せず看護を

受けられることに気づいた学びである。看護師が、本当に援助したいと思っている意思を、患者に理解してもらうことは不可欠である。その気持ちが、患者に理解され、看護師への信頼が得られてから、はじめて、患者及びその家族たちは、自分たちの不安や怖れを話そうとしてくれる。看護師が、患者を理解すると、患者の気持ちは安定して落ちつき、そのまま患者を支えることになる。看護師が、患者の話を聴き、ありのままに理解し、受け入れようとした誠実な姿勢を示すことによって、患者は安心し、自由に発言したり、気持ちを訴えられると考える。このような自由に何でも言える雰囲気を看護師自身が常に意識的に、患者に提供できたら、患者との人間関係は円滑になり、よりよい看護を提供できるようになると考える。

学内演習において、患者役の学生と向き合うことを通して、対象への親密さがコミュニケーションの深まりに関連するという学生の気づきについて、『基本的態度をお互いに意識していれば、お互いの心と心の距離が近くなったと感じがして、信頼関係が深まった感じがした』『コミュニケーションを通して、心が開くということからおたがいの良い関係が築けると思う』などがあつた。これら、学生の学びから、コミュニケーションは、単に情報の伝達という手段的な意味だけでなく、もっと人間的な意味があると捉えていることがわかる。このことについて、津村¹⁰⁾は、「コミュニケーションとは、人と人との間に共同性を打ち立てようとする働きがあるということ、それぞれ、独自の世界に住んでいる人とが、お互いの気持ちや価値観やその人が住んでいる世界を相手に聴き示すことによって、理解しあい、意味や感情や価値の世界を共有化していくという働きがあり、共同存在としての人間にとって、極めて、大切な営みである」と説明している。

また、対象の理解や自己理解など相互に理解できると捉えた意味については、学生の記述から、『患者さんの意見を聞き、コミュニケーションをとることからお互いを理解し、信頼関係が生まれると思う』『互いが少しでも理解できた喜びがある』『傾聴を常に心がけていることで、気づかなかったこともたくさん知ることができるし、気づかせてくれたことを、素直に受け入れることで、対人関係や信頼関係がうまくできると思う』など、看護師の姿勢が対象を理解することやお互いが理解し合えることにつながるという内容がみられた。看護師に求められる資質として、G. パートン¹¹⁾は、「よい人間関係への第一歩は自分自身を知ることである。機敏なナースになるためには、自分の行動が他人の行動に与える影響を理解しようとする努力が大切」であるとしている。看護は人間対人間の関係で成立することから、自分自身を知ることが対象との人間関係を作る上で重要といえる。このことについては、「看護とは対人関係のプロセスであるとして指摘し、看護を受ける人に対して、看護師が影響を及ぼしたり、逆に受ける人から影響を及ぼされたりしながら、相互作用の結果として、連続した運動や活動あるいは変化が起きているのである」¹²⁾とトラベルビーが指摘する内容と関連した学びであることが伺える。

Ⅶ. 結論

- 1) 基礎看護技術の学内演習時, 基本的姿勢を意識した者は28名(73.7%)であった。
- 2) 看護師の基本的姿勢を用いたことで, 看護における対象との人間関係に以下のような意味を捉えていた。
 - (1) 信頼関係を築くことができる。
 - (2) 対象との関係が円滑になりよりよい看護につながる。
 - (3) 親密さが生まれコミュニケーションを深めることができる。
 - (4) 自己理解や対象理解など相互に理解できる。
 - (5) 対象と共にあるという関係になる。

おわりに

日々の看護業務は, 人間関係の連続である。人々により相互作用を及ぼしあえるかにかかっている。学内演習において, 看護師の姿勢が対象との関係にどのような意味を持つかということを意識し, 記述してみたことは, 学生が意識せず相手に向けられていた姿勢の意味を学べたものと考えられる。これらの学びを臨地実習において対象との人間関係形成につなげることを期待したい。

引用文献

- 1) トラベルビー著(長谷川浩他訳): 人間対人間の看護, 医学書院
- 2) 村中陽子: 看護実践に有効なコミュニケーション, 月間ナーシング, Vol.21 No.4, p34, 2001.
- 3) 津村俊充他: 人間関係トレーニング, p5, ナカニシヤ出版, 2000.
- 4) 富田幸江: 学生が認識できた看護師の傾聴のあり方とその意味, 山梨県立看護短期大学部紀要 Vol.8 No.1 (2002), P89-97
- 5) 大段智亮: 面接の技法, メヂカルフレンド社, p114-121, 2001.
- 6) 菊池登喜子: 人のかかわりの過程, 看護 MOOK, 看護とコミュニケーション, 金原出版株式会社, p65-69, 1991.
- 7) 伊東 博: 援助する教育, 明治図書, 1971.
- 8) G・ゴートン(大塚寛子他訳): ナースと患者, p10-20, 医学書院
- 9) 前掲書8) p106-200
- 10) 前掲書3) p81
- 11) 前掲書8) p70-85
- 12) 前掲書1)